**メッセージのレジュメ**

**2021年4月11日（日）**

**聖書箇所：エズラ記１章１節～１１節**

**タイトル：「エルサレム帰還に見る神のご計画」**

Ⅰ．聖書の区分

1. モーセ五書：創世記～申命記（５巻）
2. 歴史書：ヨシュア期～エステル記（１２巻）
3. 諸書または聖文書：ヨブ記～雅歌（５巻）
4. 預言書：イザヤ書～マラキ書（１７巻）

Ⅱ．預言書の区分

・捕囚前預言者（１２人）

◎預言者たちの活動場所　王国分裂：紀元前９３２年～

　**北イスラエル**：エリヤ、エリシャ、①ホセア、②アモス

☆北イスラエルの首都サマリヤが、アッシリヤによって陥落。紀元前７２２年

**南ユダ**：③ヨエル、④イザヤ、⑤ミカ、⑥ゼパニア、⑦エレミヤ（⑧哀歌）、⑨ハバクク

周辺諸国について預言した預言者たち：⑩ヨナ（アッシリヤの首都ニネベ）、⑪ナホム（ヨナと同じくアッシリヤの首都ニネべ）、⑫オバデヤ（エドム人）

以上がバビロン捕囚前預言者（エレミヤは両時代に活動した）

・捕囚中預言者（２人）

☆アッシリヤとエジプトの連合軍をバビロンが制圧。

　第一回捕囚　紀元前６０５年(ダニエル1章1節、2歴代誌36章)　・ダニエル捕囚民となる

　第二回捕囚　紀元前５９７年(2列王記24章12-17節、エレミヤ27章16節-)・エゼキエル捕囚民となる。

　第三回捕囚　紀元前５８６年（エルサレム陥落）(2列王記24章8-17節、エレミヤ52章17-23節)　　第四回捕囚　紀元前５８２年(エレミヤ書52章30節)

☆南ユダの首都エルサレムがバビロンによって陥落。紀元前５８６年。

◎バビロン捕囚後預言者

　⑬ダニエル、⑭エゼキエル

・捕囚後預言者（３人）

◎バビロンからの帰還　紀元前５３８年　帰還後の預言者

⑮ハガイ、⑯ゼカリヤ、⑰マラキ（その他エズラ、ネヘミヤ、エステル等）

以上１７の預言書の区分。

◎メッセージのレジュメ

　エズラ記１章

　紀元前５３８年にペルシャの王、クロス大王がバビロンを滅ぼし、紀元前５３９年にバビロン捕囚となっていたイスラエルの民は、バビロンの地からエルサレムに帰還させることを許可する。

☆これは、驚くべき出来事であったが、この出来事は、ただ単にクロス王の寛容政策によって行われたということではなく、その背後に主の御手があり、ご計画があった。そしてこのことが既に預言者たちによって語られていた。

**１．預言者イザヤによって**

　イザヤが預言活動をしたのは、おおよそ紀元前７７０年～７１０年頃。約６０年間。

「17 見よ。わたしは彼らに対して、**メディヤ人を**奮い立たせる。彼らは銀をものともせず、金をも喜ばず、18 その弓は若者たちをなぎ倒す。彼らは胎児もあわれまず、子どもたちを見ても惜しまない。こうして、**王国の誉れ**、カルデヤ人（バビロン）の誇らかな栄えであるバビロンは、神がソドム、ゴモラを滅ぼした時のようになる。」（イザヤ書１３章１７節～１９節）

（１）王国の誉れ

　この時のオリエントの派遣国家はアッシリヤ。しかしやがてバビロンがアッシリヤを倒し、バビロンが派遣を握るということ。

（２）バビロンの滅び

　バビロンの滅びが預言された。

（３）メディア人を

　バビロンの崩壊のためにメディア人を用いるとの予言

・イザヤ書４５章においては、そのことを行う人物の固有名詞、クロスの名前まで予言されていた。

**２．預言者エレミヤによって**

　（１）バビロンによる南ユダの崩壊（エレミヤ書２５章９節）

　（２）バビロンによって崩壊した南ユダの捕囚は、７０年間続く（エレミヤ書２５章１２節）

まとめ

　預言者によってバビロンの崩壊、そのためにクロスが用いられること、またそのクロスによって捕囚が終わり、神殿が再建されることまでも予言されていた。イザヤ書４４章、４５章

◎どうして？

１．主が主であることを人々が知るため。

２．わたしのしもべヤコブ、わたしが選んだイスラエルのため。

☆主は、ご自分の愛する神の子のために、未信者のリーダーさえも用いて、ご自身のご計画のために。ご自身の愛する者のために万事を働かせて益としてくださるということ。